

学部・研究科名 農学部  
 学部長・研究科委員長名 小川 博  
 学科名・専攻名 農学科

1. 教育課程・学習成果に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> 講じている <input type="checkbox"/> 一部講じている <input type="checkbox"/> 講じていない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない
点検項目に対する 現状説明	カリキュラム・ポリシーに基づき、毎年見直しを行っている。とくに2018年度4月からの学部改組にともない、授業科目の見直し・変更を行った。	3年生以降の演習および卒業論文作成を意識した教育を、1年生対象の複数の科目で行っており、プレゼンテーション力や文献検索力を高める効果を挙げた。	シラバス作成、成績評価を大学の基準を順守して行った。またディプロマ・ポリシーの見直しを行い、教員間で共有した。	実験、演習、農業実習のほか卒業論文を必修としている。とくに卒業論文は、学生とのコミュニケーションが必要となり、学習成果を適切に把握・評価する上で、重視している。また客観的評価法の確立に向けた試行（PROGなど）を始めている。	教育課程及びその内容、方法の適切性は、学科長・主事他数名の教員からなる農学科教学委員会を設置し協議している。定期的に学科会議などに諮問、協議して、改善・向上を図っている。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・実習を重視したカリキュラム体系になっている。	【長所】 ・卒業論文を早い段階で意識させ、作成テクニックを学ばせている。	【長所】 ・実習を重視することで、知識だけでなく、思考力、判断力、問題解決能力を身に付けさせられる。	【長所】 ・全員に卒業論文に取り組みせることで、学習成果の把握を可能としている。	【長所】 ・農学科の特徴である実習重視の教育方針を、堅持できている。
	【特色】 ・伊勢原農場の協力を得ながら、濃い内容の実習教育を実施している。	【特色】 ・情報基礎（一）（二）を学科独自に開講している。	【特色】 ・社会人として主体的、協働的な活動ができる能力も重視している。	【特色】 ・卒業論文は調査論文も認めており、卒業生の幅広いニーズに対応している。	【特色】 ・実習は伊勢原農場の協力が欠かせない。協力を得ながら、中身の濃い内容となっている。
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・なし
	【課題】 ・なし	【課題】 ・なし	【課題】 ・なし	【課題】 ・なし	【課題】 ・なし
根拠資料名					

2. 学生の受け入れに関する点検・評価項目

	①	②
点検項目	学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。	学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない
点検項目に対する 現状説明	入試課と連携して、入試制度の整備・点検に取り組んだ。学部改組に伴い、アドミッション・ポリシーの見直しを図った。とくに2018年4月からの学部改組を踏まえて、学科の独自性を確保しながら、農学部全体を盛り上げるべく、学生募集等に取り組んだ。	農学部入試広報委員会と連携を取りながら、改善・向上に向けて取り組んでいる。とくに出張講義には力を入れて、高校生からの反応を見極め、アドミッション・ポリシーなどの改善に活かした。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	<b>【長所】</b> ・学部改組の中で、適切な入試制度の保持につとめた。	<b>【長所】</b> ・入試課を中心に、農学部3学科と連携して制度や体制の見直しを図っている。
	<b>【特色】</b> ・編入試験の在り方が大きく変化する中で、引き続いて公正な実施に向けて体制を整備した。	<b>【特色】</b> ・農学部全体の取り組みの中で、農学科としてできることを明確にした。その中で、生産農学という軸は維持しつつ、消費者との連携を意識することにした。
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	<b>【問題点】</b> ・なし	<b>【問題点】</b> ・なし
	<b>【課題】</b> ・なし	<b>【課題】</b> ・なし
根拠資料名		

3. 教員・教員組織に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。	教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	教員の募集、採用、昇任等を適切に行っているか。	教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。	教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない	<input checked="" type="checkbox"/> つなげている <input type="checkbox"/> 一部つなげている <input type="checkbox"/> つなげていない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない
点検項目に対する現状説明	本年度、大学、学部の方針にのっとり、農学科でも以下の通り明示した。 1. 持続可能な次世代型農業の創造に貢献できる教員 2. 農学に関する知識を基盤に、作物生産の発展に資する教育・研究能力を持つ教員 3. 農学に関する知識を基盤に、農産物の生産から流通までを支える技術の発展に資する教育・研究能力を持つ教員	学科の教育研究上の目的、教育目標、ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーを十分理解し、その具現化に向け強い意欲を持つ教員を研究室に配置した。	学部改組に伴い教員募集、採用、昇任などを適切に行った。	研究室(学科)横断型プロジェクトの推進などを通じて、教員の質の向上に努めた。	学部改組にともない、農学科も新生農学科として生まれ変わり、研究室を改変した。また次年度の新規教員の採用に際し、選考委員会などを通じて、農学科の未来を見据えた議論を行った。
現状説明を踏まえた長所・特色	<b>【長所】</b> ・農学科のディプロマ・ポリシーにのっとり内容になっている。	<b>【長所】</b> ・実習教育を意識した教員配置になっている。	<b>【長所】</b> ・なし	<b>【長所】</b> ・研究室間、学科間のコミュニケーションを意識して、プロジェクト研究の立ち上げ、実行に力を入れている。	<b>【長所】</b> ・なし
	<b>【特色】</b> ・研究室はもとより、分野を意識した内容になっている。	<b>【特色】</b> ・研究活動を教育に活かせる教員を配置している。	<b>【特色】</b> ・なし	<b>【特色】</b> ・地域社会とも結びつくことで、研究成果の社会還元に取り組み、教員の資質向上を図った。	<b>【特色】</b> ・なし
現状説明を踏まえた問題点及び次年度への課題	<b>【問題点】</b> ・なし	<b>【問題点】</b> ・なし	<b>【問題点】</b> ・なし	<b>【問題点】</b> ・なし	<b>【問題点】</b> ・なし
	<b>【課題】</b> ・なし	<b>【課題】</b> ・なし	<b>【課題】</b> ・なし	<b>【課題】</b> ・なし	<b>【課題】</b> ・なし
根拠資料名					

学部・研究科名 農学部  
 学部長・研究科委員長名 小川 博  
 学科名・専攻名 畜産学科

1. 教育課程・学習成果に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input type="checkbox"/> 講じている <input checked="" type="checkbox"/> 一部講じている <input type="checkbox"/> 講じていない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input type="checkbox"/> 行っている <input checked="" type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない
点検項目に対する 現状説明	H30年度に農学部を改組するため、現畜産学科の配当科目を本学部の新設する学科対応に学部として再編成している。	教育・研究に関する学生の発表を教室以外のオープンスペースで積極的に実施している。	成績判定会議の結果を学科教員全員に開示し、確認している。	学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）は、毎年学科会議で確認している。	教育課程及びその内容、方法の適切性について学生による授業評価を実施している。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・学部としての学生像もふまえた、学部共通科目の充実	【長所】 ・討論へ自由参加	【長所】 ・成績評価の共通理解	【長所】 ・学習効果の共通理解	【長所】 ・定期的に点検・評価
	【特色】 ・3学科対制から4学科体制 ・農学リテラシー	【特色】 ・オープンスペースの活用	【特色】 ・なし	【特色】 ・なし	【特色】 ・なし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・なし	【問題点】担当教員の評価が適切であるのか現状では判断出来ない。
	【課題】 ・H30年度に農学部を改組するため、新学科で検討している。	【課題】 H30年度に農学部を改組するため、新学科で検討している。	【課題】 H30年度に農学部を改組するため、新学科で検討している。	【課題】 H30年度に農学部を改組するため、新学科で検討している。	【課題】 H30年度に農学部を改組するため、新学科で検討している。
根拠資料名	特になし	オープンスペース利用記録	合同教授会、進級等の資料	学科会議議事録	全学FD委員会でデータを保管。

2. 学生の受け入れに関する点検・評価項目

	①	②
点検項目	学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。	学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない
点検項目に対する 現状説明	学部としての学生像を踏まえ、学科の独自性を確保しながら、学生募集等に取り組んだ。	出張講義には力を入れて、高校生ならびに高校教員からの反応を見極め、アドミッション・ポリシーなどを改善した。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	<b>【長所】</b> ・アドミッション・ポリシーに基づいた入学試験科目の検討	<b>【長所】</b> ・学部としての制度や体制の見直し
	<b>【特色】</b> ・なし	<b>【特色】</b> ・なし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	<b>【問題点】</b> ・H31年度入試科目には反映出来なかった	<b>【問題点】</b> ・なし
	<b>【課題】</b> ・なし	<b>【課題】</b> ・なし
根拠資料名	世田谷入試センター入試選考委員会議事録	世田谷入試センター入試選考委員会議事録

3. 教員・教員組織に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。	教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	教員の募集、採用、昇任等を適切に行っているか。	教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。	教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input type="checkbox"/> 行っている <input checked="" type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない	<input type="checkbox"/> つなげている <input checked="" type="checkbox"/> 一部つなげている <input type="checkbox"/> つなげていない	<input type="checkbox"/> 行っている <input checked="" type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない
点検項目に対する現状説明	「大学・学部の方針に則り、生命科学関連および良質で安全な食料を生産する生産科学領域で活躍できる人材を養成し得る強い意欲と能力を持った教員」とし、HPで公表している。	教育研究上の目的、教育目標、ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーを各教員は十分理解し、その具現化に向け強い意欲を持つ教員を研究室に配置した。	教員の募集、採用は完全公募制とし大学ホームページならびに JRECK-IN で公開している。 昇格基準を満たした教員に対しては、昇格申請を提出する様に指導している。	任期制教員に対しては、毎年教育・研究目標の達成状況を面談にて確認している。 任期制教員以外は、大学が実施している自己点検のみに委ねている。	・年2回、学科教授会において教員組織の適切性(特に職階と年齢構成)について確認している。
現状説明を踏まえた長所・特色	【長所】 ・ディプロマ・ポリシーに基づいている	【長所】 ・学際的領域をカバー出来る学科教員体制	【長所】 ・複数の媒体に寄る公募のため一募集あたり15名前後の応募がある	【長所】 ・なし	【長所】 ・なし
	【特色】 ・なし	【特色】 ・研究室、分野を考慮した編成	【特色】 ・なし	【特色】 ・学部長、学科長、分野主任に寄る面談	【特色】 ・なし
現状説明を踏まえた問題点及び次年度への課題	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・一部昇格が停滞している教員がいる	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・なし
	【課題】 ・なし	【課題】 ・なし	【課題】 ・なし	【課題】 ・なし	【課題】 ・なし
根拠資料名					

学部名 農学部  
 学部長名 小川 博  
 学科名 バイオセラピー学科

1. 教育課程・学習成果に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> 講じている <input type="checkbox"/> 一部講じている <input type="checkbox"/> 講じていない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない
点検項目に対する 現状説明	カリキュラム編成については数年に一度行われるカリキュラム変更に合わせて、科目構成、科目名変更などの見直しを行っている。カリキュラム内容については、2016年度から継続して、主に実験実習演習科目について変更を行った。	学問体系を学生に理解させるための学科独自のレポート用紙の使用（実験実習科目）、実験実習科目の目的を意識させるための教材の作成と説明を行っている。	学生生活ハンドブック記載の単位、学習時間、欠席の取り扱いなど、履修に関する事項および各科目での評価基準の説明を行っている。特に学科の基幹科目であるバイオセラピー概論（1年前期）内において、大学で学ぶことの意味を理解させる一環として上記内容を理解させている。	入学時から卒業時まで一貫して、生き物・環境・人とそれらの関係性について学ぶことで学生が自らのバイオセラピー学構築を意識できるよう、指導を行っている。	複数担当科目については第三者によるシラバスチェックおよび学期初めにスケジュールおよび評価方法を学科会議にて議論し、改善に役立っている。単独開講科目については第三者によるシラバスチェック後、再度学科内に回覧し、シラバスの見直しに役立っている。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・ディプロマ・ポリシーを意識した学問体系を具体化した教育課程編成になっている。	【長所】 ・学生の学問体系理解に役立っている	【長所】 ・学ぶことの意味を考えながら学修を行ったことの正当な評価として、学生が自らの成績を捉えることができる。	【長所】 ・学生が目的を見失うことなく学習できる。	【長所】 ・全学で共通導入されているシステムに準拠しているため、改組後移籍先の学科において元所属学科別の齟齬が生じない。
	【特色】 ・(学生は)ほぼ全ての科目から他領域への応用を意識できる。	【特色】 ・学問体系を理解させた上で、学生に他領域や社会での活用法を意識させることができる。	【特色】 ・なし	【特色】 ・学生の視野が広くなり、進路の幅が広がる。	【特色】 ・なし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・なし
	【課題】 ・なし	【課題】 ・なし	【課題】 ・なし	【課題】 ・なし	【課題】 ・なし
根拠資料名	・なし	・学科独自に作成した教材（写真；資料1-1）	・なし	・なし	・なし

2. 学生の受け入れに関する点検・評価項目

	①	②
点検項目	学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。	学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	<input type="checkbox"/> している <input checked="" type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input checked="" type="checkbox"/> 行っていない
点検項目に対する 現状説明	<u>H30年募集停止</u> 編入学試験、転学部転学科試験については、アドミッションポリシーに基づき厳正に入学者選抜を行った。具体的には、学科の理念でもある生き物・環境・人とそれらの関係性について考究することの重要性を理解していることに重きを置いている。	<u>H30年募集停止</u>
現状説明を 踏まえた 長所・特色	<b>【長所】</b> ・なし	<b>【長所】</b> ・なし
	<b>【特色】</b> ・なし	<b>【特色】</b> ・なし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	<b>【問題点】</b> ・なし	<b>【問題点】</b> ・なし
	<b>【課題】</b> ・なし	<b>【課題】</b> ・なし
根拠資料名	・なし	・なし

3. 教員・教員組織に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。	教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	教員の募集、採用、昇任等を適切に行っているか。	教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。	教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input type="checkbox"/> 行っている <input checked="" type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない	<input checked="" type="checkbox"/> つなげている <input type="checkbox"/> 一部つなげている <input type="checkbox"/> つなげていない	<input type="checkbox"/> 行っている <input checked="" type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない
点検項目に対する 現状説明	大学・学部における方針に則り、～～中略～～教員を研究室に配置する。以下の項目を満たすことを要件とする。 1. 農学を基盤とした生き物・環境・人とそれらの関係性に関する理解を有する教員 2. 人の健康と福祉に資する福祉農学の発展に寄与する意欲を備えている教員とHPに公表している。	H30 募集停止であるため、今後教員組織編成は出来ないが、組織編成の変更を余儀なくされた場合は、学生への教育の質を保証するための教員間協力体制と研究室規模の変更を検討するなど、過去に対策を行ってきた。今後も予期せぬ組織変更に対しては柔軟に対応していく。	H30 募集停止であるため、募集および採用は行っていない。昇任に関しては該当者有無の確認と適性の判断を学科内主任・教授会を開催して審議している。今後、所属教員の殆どが新所属学科にて昇格手続きを行うはずである。	委員会委員や外部からの委託業務等について、担当者一覧を学科開設当初から記録し続けている。これを指標としながら特に資質向上の重要性が高い任期制および若手教員に業務が偏らないように多面的に配慮している。	研究室あたりの学生数と教員の割合、補職の状況を踏まえ、検討を行っているが、今後、学科閉鎖に伴い、新たな枠取りなどの人事業務は行えないため、改善・向上に向けた取り組みは行っていない。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	<b>【長所】</b> ・学際的要素が強い教員組織編成であることが理解できる	<b>【長所】</b> ・なし	<b>【長所】</b> ・なし	<b>【長所】</b> ・資質向上に資するための時間が全教員に公平に提供される。	<b>【長所】</b> ・なし
	<b>【特色】</b> ・なし	<b>【特色】</b> ・なし	<b>【特色】</b> ・なし	<b>【特色】</b> ・担当実習回数等とも連動させている	<b>【特色】</b> ・なし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	<b>【問題点】</b> ・なし	<b>【問題点】</b> ・なし	<b>【問題点】</b> ・なし	<b>【問題点】</b> ・なし	<b>【問題点】</b> ・なし
	<b>【課題】</b> ・なし	<b>【課題】</b> ・学科閉鎖に向けて、今後組織編成に変更が生じることがあり得るため、入念な準備が必要である。	<b>【課題】</b> ・なし	<b>【課題】</b> ・改組後農学部カリキュラムとの調整が必要。	<b>【課題】</b> ・なし
根拠資料名	・なし	・なし	・なし	・業務リスト（資料1-2）	・なし

学部・研究科名 農学部  
 学部長・研究科委員長名 小川 博  
 学科名・専攻名 農学科

1. 教育に関する総合的事項

	①	②
目 標	実学的農業教育による地域社会の担い手養成	学生とのコミュニケーション強化による不本意留年の抑止
実行サイクル	1年サイクル（平成29年～30年）	1年サイクル（平成29年～30年）
実施 スケジュール	9月：世界学生サミットへの参加 11月：収穫祭文化学術展への参加（1年生、3・4年生） 当該月：学外農業研修・実習報告会の開催	4月：新入生オリエンテーションの実施 5月、7月：クラス別懇談会の実施 通年：研究室における取り組み 通年：学生相談室との連携
目標達成を測 定する指標	就農を含む農業関連産業等への就職者数	不本意留年者数の推移
自己評価 (☑を記入)	<input type="checkbox"/> 達成した <input checked="" type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更	<input checked="" type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更
目標に 対する 現状説明	1年生に対しては、世界学生サミット、収穫祭文化学術展への参加を義務付けている。文化学術展へは全研究室から3ないし4年生が出展した。これらの活動は、大学での学びや社会との結びつきについて考えさせる契機となった。その成果として、地域社会への関心を高めることができた。「農業ビジネスデザイン」等を通じた学外農業研修への参加数はキャリア課が把握しただけでも164名に達した。就農を含む農業関連産業等への就職者数は18名で、このほかにも一旦企業等に就職してから就農する卒業生も多い。	4月の新入生オリエンテーションは、学科ガイダンス、講義の履修方法の説明会、部やサークルの紹介など、4日間ほとんど欠席者もなく経過した。5月、7月に1年生クラス別懇談会を実施して、大学生生活の不安な点などの相談にのった。3年次以降学生全員を研究室に所属させ、きめの細かい指導を実施している。また学生相談室のカウンセラーと連携して、不本意学生の早期発見、対応に努めた。留年者数は30名前後と減少傾向、学生相談室相談件数は、2月末時点ですでに昨年度を上回っている。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	<b>【長所】</b> ・1年生の文化学術展への参加は、3年生以降の研究室活動へのオリエンテーションとなり、実学的農業教育の一端に触れる機会として有意義である。 <b>【特色】</b> ・文化学術展の印象は、3年次の研究室選択の大きな要因となっている。目的意識とマッチした研究室選択は、卒業後の進路を決定づける。	<b>【長所】</b> ・新入生オリエンテーションでは、立食形式の歓迎パーティーを実施、最後は応援団の協力の下、青山ほとりで締めくくっている。お互いを知り親しくなるよい機会を提供できている。 <b>【特色】</b> ・1年生のクラス別懇談会では、新入生歓迎パーティーで、お互いを知ることができよかったとの学生の声が多くあった。
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	<b>【問題点】</b> ・世界学生サミットが世田谷開催の年次は問題ないが、海外協定校での参加の場合代替案がない。 <b>【課題】</b> ・ISFへの参加を呼び掛けるなど、海外への意識を高めていくことが課題である。	<b>【問題点】</b> ・なし <b>【課題】</b> ・なし
根拠資料名	資料1	

2. 研究に関する総合的事項

①	
目 標	研究シーズの発掘と横断型プロジェクトの推進
実行サイクル	1年サイクル（平成29年～30年）
実施スケジュール	2月：横断型研究発表会等の開催
目標達成を測定する指標	横断型プロジェクト申請数、採択数
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更
目標に対する現状説明	2月に開催した博士前期課程発表会に、多くの学生の参加を呼びかけ、所属以外の研究室でいかなる研究が実施されているかを学ぶ機会とした。そのほか一部の大学院生ゼミを公開とし、さらに卒業論文発表会も複数の研究室合同で実施するケースをつくるなどした結果、多くの学生、大学院生、教員が参加した。学科(学部)横断型プロジェクトとして、総合研究所戦略研究プロジェクトで2年目を迎えた「東京農大厚木キャンパス発のブランド作物の構築～高品質ペピーノでキャンパス興し～」や、新しく本年度から始まったフィリピン共同研究プロジェクト「東ミンドロ州におけるカラマンシー産業の発展に向けた研究と能力開発」を学科の教員が主導して実施した。学生は研究室の枠を超えて学ぶ機会となった。また職員も参加することで、とかく専門に偏りがちな研究内容・成果を教職員が共有することに努めた。その結果、外部への発信力を強化できた。
現状説明を踏まえた長所・特色	<b>【長所】</b> ・研究室相互の連携によって、今までにない迅速かつ総合的な成果が挙げられている。  <b>【特色】</b> ・厚木キャンパスから社会に向けての発信が多くなっている。また講義や、オープンキャンパス、出張講義などで紹介すると、学生、生徒の関心を強くひく。
現状説明を踏まえた問題点及び次年度への課題	<b>【問題点】</b> ・なし  <b>【課題】</b> ・なし
根拠資料名	

3. その他に関する総合的事項

	①	②
目 標	アドミッション・ポリシーに則った学生の確保	公務員（とくに農業職）への就職支援
実行サイクル	1年サイクル（平成29年～30年）	1年サイクル（平成29年～30年）
実施 スケジュール	通年：出張講義 通年：個人・団体見学対応 8月：オープンキャンパス 5月、6月：キャンパスツアー（厚木、世田谷） 11月：進学相談会	2月：公務員試験対策講座
目標達成を測 定する指標	受験者数 新入生アンケート	公務員試験受験者数、合格者数
自己評価 (☑を記入)	<input type="checkbox"/> 達成した <input checked="" type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更	<input checked="" type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更
目標に 対する 現状説明	例年通り、出張講義、個人・団体見学に積極的に関与した。オープンキャンパス、キャンパスツアー、進学相談会等にも教員を派遣し、受験生確保に努めた。受験者数は、学部改組の中、定員数を大幅に減らしたことで、昨年と比較することはできないが、合格最低点は各学科の中でも上位となった。	2/14 から 16 日にかけて、学部3年生を対象に、農学の専門科目である植物病理学、作物学、園芸学、育種学、昆虫学の公務員対策講座を実施した。実施時間の合計は6時限に達する。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	<b>【長所】</b> ・出張講義などを積極的に受け入れることで、受験生の要望にも触れることができ、自らの教育研究活動を振り返ることができる。 <b>【特色】</b> ・東京農業大学を代表する学科であり、外からの講義等の要望も根強くある。	<b>【長所】</b> ・ほとんどの講座を、実際に公務員を経験していた教員が担当した。 <b>【特色】</b> ・より実践的な内容になった。
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	<b>【問題点】</b> ・キャンパスに受験生をまねくイベントが多いため、参加する受験生に重複がみられる。 <b>【課題】</b> ・こちらから積極的にアピールする場を、キャンパス以外で設定することが課題である。	<b>【問題点】</b> ・なし <b>【課題】</b> ・なし
根拠資料名		

学部・研究科名 農学部  
 学部長・研究科委員長名 小川 博  
 学科名 畜産学科

1. 教育に関する総合的事項

	①	②	③
目 標	進級・卒業率の向上	卒業生による特別講義の実施	優秀論文発表会の実施
実行サイクル	4年サイクル（平成29年～平成32度）	4年サイクル（平成29年～平成32度）	
実施 スケジュール	・出席状況不良者への指導（毎年6月，7月） ・成績不良者への指導（毎年5月，2月）	・毎年前期1～2回程度（畜産学科同窓会共催）	・毎年1月（各研究室1名）
目標達成を測 定する指標	・進級・卒業率	・実施回数	・実施の有無
自己評価 (☑を記入)	<input type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更	<input checked="" type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更	<input checked="" type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更
目標に 対する 現状説明	100%，卒業，進級を目指したが，各学年数名留年者は出してしまった。	畜産概論の講義の一貫として、	1/7（水）7研究室の代表がトリニティーホールで卒論をパワーポイントを用いて以下の通り発表した。  1）教員による卒論の概要説明 2）口頭発表（15分） 3）質疑応答（5分） 4）教員による採点 5）各種優秀賞の決定
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・担任によるきめ細かい指導	【長所】 ・学科同窓会との連携	【長所】 ・学科の他研究室の研究を聴講出来る。
	【特色】 ・メール，面談等による個別指導	【特色】 ・本学科卒業生に限定している	【特色】 ・2年生は，ほぼ全員参加していた。
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・日程調整が難しい	【問題点】 ・発表演題数を増やす
	【課題】 ・なし	【課題】 ・	【課題】 ・発表方式の検討
根拠資料名	学科会議議事録に指導記録を残した。 担任には，卒業，進級判定資料を配布した。	特別講演用ポスター	卒論発表会講演要旨

## 2. 研究に関する総合的事項

	①	②
目 標	学会発表への参加	論文発表への参画
実行サイクル	4年サイクル（平成29年～平成32度）	4年サイクル（平成29年～平成32度）
実施スケジュール	年間を通じて	年間を通じて
目標達成を測定する指標	・学生本人による発表数	・共著論文発表数
自己評価 (☑を記入)	<input type="checkbox"/> 達成した <input checked="" type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更	<input type="checkbox"/> 達成した <input checked="" type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更
目標に対する現状説明	研究室個々の活動と、研究室、学科、学部間の連携した活動	研究室毎の活動が多い
現状説明を踏まえた長所・特色	【長所】 ・研究に対するモチベーションのアップ	【長所】 ・研究に対するモチベーションのアップ
	【特色】 ・なし	【特色】 ・なし
現状説明を踏まえた問題点及び次年度への課題	【問題点】 ・調査しないと現状が分かり難い	【問題点】 ・調査しないと現状が分かり難い
	【課題】 ・学科HP, 研究室HPでの積極的な公開	【課題】 ・学科HP, 研究室HPでの積極的な公開
根拠資料名	関連学会HP	PubMed, 関連学会HP

3. その他に関する総合的事項

①	
目 標	改組に伴う学生の友好団体の畜友会活動の見直し
実行サイクル	3年サイクル（平成29年～31年）
実施 スケジュール	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ H29年度畜友会会則の一部改正，会費徴収制度の廃止</li> <li>・ H30年度活動の見直し</li> <li>・ H31年度畜友会の解散</li> </ul>
目標達成を測 定する指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 上記スケジュールの履行状況</li> </ul>
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更
目標に 対する 現状説明	H29年度の総会で掲げた活動は達成出来た
現状説明を 踏まえた 長所・特色	<p>【長所】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 会員相互の親睦を図り，併せて学科の発展に寄与</li> </ul> <p>【特色】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 年間を通じた活動と収穫祭に特化した活動</li> </ul>
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	<p>【問題点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 改組後の学部内連携</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 改組後の新学科と連携</li> </ul>
根拠資料名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 畜友会総会議事録</li> <li>・ 畜友会機関誌『ふじみの』</li> </ul>

学部・研究科名 農学部  
 学部長・研究科委員長名 小川 博  
 学科名・専攻名 バイオセラピー学科

1. 教育に関する総合的事項

①	
目 標	ディプロマポリシーを実現するための取り組み(含H28からの継続課題;学科廃止まで継続する)
実行サイクル	4年サイクル(平成29年~32年)
実施スケジュール	<p>毎年度、前期および後期開始時に学科教員に対して、各学年に段階的にディプロマポリシーの根幹部分である「生き物・環境・人について学び、それらの関係性について考える」機会を与えるように、学科会議内にて指示する</p> <p>指示内容</p> <p>①1年生に対して；必修である柱科目が多い学年であるため、各科目の内容理解を深めつつ、それらの科目の目指すもの(目標)をしっかりと理解できるように指示を与え、2年次以降の「関係性を考えるための基礎づくり」とする</p> <p>②2年生に対して；座学科目に於いては1年生に対する指導を2年生においても実施するとともに、2年次において開講される学科の基礎的な内容を取り扱う実験実習の共通レポート用紙に課されている課題「本実習の内容は何に役立つか」への学生の記載内容を各教員がチェックし、2年次学生のバイオセラピー学の理解度を評価する</p> <p>③3年・4年生に対して；東京農業大学における学びの中心である研究室において、専門的な教育を深めるとともに、受講した座学・実験実習演習内容が他研究室・分野、あるいは社会のどのような内容に役立つのかを考えさせる教育を研究室単位で行う</p> <p>④全学年に対して；①~③を通して、領域横断的、学際的要素の強いバイオセラピー学を個々で構築することに役立ち、ひいては他者にバイオセラピー学を説明する時(例；就職活動時に面接官に説明)に役立つことを説明する</p>
目標達成を測定する指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学科会議議事録(教員への周知と議論内容)</li> <li>・実施状況調査結果(学科会議にて独自の調査を実施する)</li> </ul>
自己評価(☑を記入)	<input type="checkbox"/> 達成した <input checked="" type="checkbox"/> 一部達成した(目標を微修正し、継続) <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更
目標に対する現状説明	H30農学部学部改組に係る業務が学科の予想を超えたため、教員に対する目標への意識喚起作業は十分には実施できなかったが、教員が学科のポリシーを再認識できるきっかけになった。
現状説明を踏まえた長所・特色	<p><b>【長所】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的に教員がディプロマポリシーを再認識できる。</li> </ul> <p><b>【特色】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・なし</li> </ul>
現状説明を踏まえた問題点及び次年度への課題	<p><b>【問題点】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・改組に係る業務繁忙により、現行のままでの実施は困難。</li> </ul> <p><b>【課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育、研究および学科運営を統括した業務の効率化が必要。</li> </ul>
根拠資料名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学科教員への説明資料(資料2-1)</li> <li>・学科会議議事録(資料2-2)</li> </ul>

2. 研究に関する総合的事項

①	
目 標	生き物・環境・人に関する基礎的研究およびそれらの関係性に関する実践的バイオセラピー研究を継続し、学部改組後の新生農学部（農学 2.0 実現）の内容に貢献する知識基盤を構築する
実行サイクル	4 年サイクル（平成 29 年～32 年）
実施スケジュール	<u>H28 年まで実施した学科内実験環境、運用システム等の整備は完成しつつあるが、H30 年の学部改組により、今後は学科単位というよりも学部単位で検討すべき事項であると判断した。</u> <u>そこで研究に関する総合事項として、バイオセラピー学科は改組後の新生農学部の内容に貢献するバイオセラピー研究の要素を個々の教員が見出し、それらを改組後完成年度までに磨くことを目標とした。</u> <u>実施スケジュールは各教員で設定し実施するが、毎年度、前期および後期開始時に学科会議にて学科教員に対して意志共有を行う</u>
目標達成を測定する指標	・卒論題目（各年度、最終版） ・学科会議議事録（教員の意志共有の内容）
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> 達成した（目標見直しの必要性あり） <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更
目標に対する現状説明	特にバイオセラピー学専攻が中心となって、バイオセラピー研究を推進してきたが、次年度（H30）に学部改組が開始するため、教員個々の新所属先での研究と、現在学生に対する研究指導内容をうまく使い分ける、あるいはその必要性の有無を判断する必要がある。
現状説明を踏まえた長所・特色	<b>【長所】</b> ・バイオセラピー学専攻の改組後農学部への貢献を意識できる  <b>【特色】</b> ・なし
現状説明を踏まえた問題点及び次年度への課題	<b>【問題点】</b> ・なし  <b>【課題】</b> ・教員個々の新所属先での研究と、現在学生に対する研究指導をうまく使い分ける必要がある。
根拠資料名	・卒論題目（一部；資料 2-3）

3. その他に関する総合的事項

①	
目 標	通常業務の効率化と学科教員の教育・研究のための時間確保
実行サイクル	4年サイクル（平成29年～32年）
実施スケジュール	H30農学部改組に際し、ほとんどのバイオセラピー学科の教員は新生農学部の4学科全てにそれぞれ異動する。これは、移行期にはほぼ全ての教員が2学科にまたがる業務を負うことを意味するが、改組後完成年度を迎えるまで現状の業務運営を続けていては、研究教育にかかる時間が大幅に削られてしまう恐れがある。そこで、限られた時間の中で極力研究教育の時間を、特に若手教員に確保していただくために、学科運営を効率化する。具体的なスケジュールとしては、①学科会議の内容を過去の運営ログから抽出し、会議開催回数を最小限にとどめる、②業務が均等に割り振られるように工夫（特定の教員に業務が集中しないように配慮）する。①と②をH29年度より学科が廃止されるまでの間、継続する。
目標達成を測定する指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>学科独自に使用している運営ログ</u></li> <li>・ <u>年間学科会議回数など、通常業務のまとめ</u></li> </ul>
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> 達成した（要継続） <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更
目標に対する現状説明	学科会議については議題の精査、連絡方法（メール、ポータル）の使い分けによって、開催回数を大幅に減らすことができた。また担当授業、実習回数をも含めた業務の均一化を図ることで、特定の教員への業務集中を防ぐことができた。
現状説明を踏まえた長所・特色	<b>【長所】</b> ・ 会議議題の精査を行ったことで、個々の教員が業務の開始時期を予測でき、事前に準備ができたため、締切遅延が減った。
	<b>【特色】</b> ・ なし
現状説明を踏まえた問題点及び次年度への課題	<b>【問題点】</b> ・ なし
	<b>【課題】</b> ・ 目標は達成しているが、恒常的に実施する必要がある ・ 学科閉鎖までに残された課題を抽出する必要がある
根拠資料名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学科会議開催予定表（年度初めに教員に配布したもの。資料2-4）</li> </ul>